

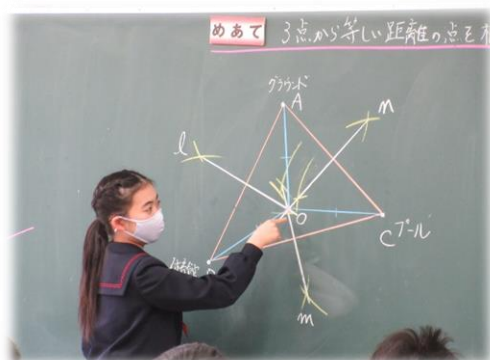
附中×GIGAスクール構想

子どもは「問い」をもつ存在であり、その「問い」こそ、学びのスタートとなります。これまでは、そのような「問い」に対して、教科書や辞書で調べたり、先生や友だちに聞いたりすることで解決してきました。しかし、限られた情報の中で得られることには限界があります。タブレット端末を使い、より多くの情報を得ることにより、「〇〇のときはどうだろう?」、「〇〇についてはわかったけど、□□はどういうことだろう?」と、子どもは探究し続けることができます。子どもがより多くの考え方にふれ、自他の学びを深化することができるように、本校では、タブレット端末の活用法として、以下の3つの取組を中心として行っています。

1. 意見共有の効率化に関する取組

これまで子どもの考えを板書することに時間をとられ、本来重視すべき考えの交流に時間をさけないという経験はありませんでしたか?

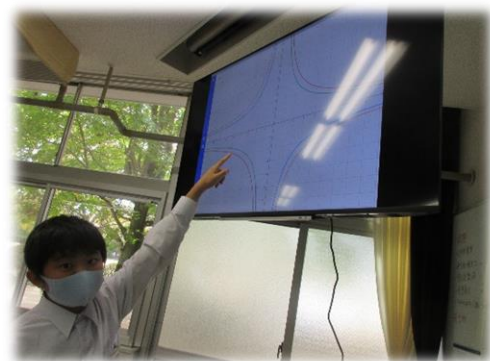
それがタブレット端末で、子どものノートを撮影したものを、テレビに映して共有したり、ロイロノートを使って全体で共有したりすることにより、これまで板書するのにかかっていた時間を短縮し、より多くの見方や考え方にふれる機会を確保することができます。



2. 資料や問題の状況を可視化する取組

全体で共有する資料や問題の状況を把握するために、これまでは、拡大印刷したものを黒板に掲示したり、張り物をいくつも準備して、手動で動かしたりしながら提示する場面はありませんでしたか?

それがタブレット端末で、パワーポイントや専用のアプリを使えば、よりわかりやすく提示することが可能になります。パワーポイントのアニメーションを駆使したり、グラフや図形をかけるアプリを利用したりすることで、これまでイメージしづらかった内容も視覚的にとらえることができるようになります。



3. 双方向でのやりとりに関する取組

これまで子どもと学校行事や生徒会活動での打ち合わせを行うときは、紙面でのやりとりが主流でした。現在本校では、google class roomを活用した活動の共有を行っています。また、全校生徒が生徒会執行部に要望をあげたり、生徒会執行部が実態把握のためのアンケートを取ったりするなど、幅広く活用しています。

また、オンライン授業を計画的に実施し、災禍においても教育活動を実施できる体制を整えています。

**本発表会の中でも、活用する場面がありますので、
こちらにもご注目ください。**